

豊中高校 二年課題研究 II 評定の考え方

(普及版)

課題研究委員会

内容

豊中高校 二年課題研究 II 評定の考え方	1
1. 方針	2
課題研究の指導目標 (2022年3月作成)	2
三観点と生徒に提示している本校の課題研究の目標の対応	3
2. 評定に向けて	4
(1) 全体方針	4
(2) チーム全体の成績について	5
(3) 個々の成績について	6
(4) 仕上げにあたって	7
配付物見本 課題研究 チームでの相互評価表	8
3. 相互チェック	9
4. 補遺	10
(1) 各学校において総合的な探究の時間の目標を定める際に考慮すること	10
(2) 各学校において探究活動の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を定める際に配慮すべきこと	10

1. 方針

課題研究の指導目標（2022年3月作成）

	環境	深い学び	主体的な学び	対話的な学び
他の教科の授業	<個> 既存の学問を様々な媒体から自分で学ぶ。	知る，できる わかる，使う	・知識を深めようとする ・自らの状態を捉え，時間を割いて，必要な学習を行う。	・自らの知識を他者に表明しながら，自らの中で整理し，有機的に結合させる。
課題研究	<集団内> ・同じチーム ・協力してくれる大人 ・応援してくれる人々 など，利害が一致する目の前にいる人たちとの関わりから学ぶ。	①既存の知識をありがたく，そして，正しく使わせてもらう。 ②事実を正しく認識し，自らの考えを上乘せして答えを見出す。 ③未知を既知にしていく過程を楽しむ。 ④オリジナリティを他者に表明する。	⑤自問自答を繰り返し，研究や自分自身の資質・能力の伸びしろを見出す。 ⑥テーマを自分ごととして捉え，何のために進むのかを認識した上で進む。 ⑦自らの手で学びの計画を立てる。 ⑧伸びしろを詰め，研究の深まりや自らの成長を楽しむ。	⑨チーム内の役割を自ら，もしくは対話の中で見出し，役割を果たす。 ⑩自分がチームに貢献していることに気づき，他者の貢献も認める。
クラスや部活動	<集団間> ・他クラス ・他クラブ ・他学年 など，「一部の利害が一致しない集団」や「目の前にいないが同じ行事を共にする集団」との関わりから学ぶ	・人が集まってできる集団に視野を向ける。 ・ルールからマナーまで広げ，個と個との関わり方を学ぶ。 ・自治や協働など集団の意思決定の方法論を学ぶ。	・生活の中での諸問題に気づき，目をつぶらずに解決する。 ・行事やイベントへ自分ごととして参画する。	・集団全体と個の両立のために自らが成すべきことを探し，行動する。 ・合意形成までの経験や過程を最終的には楽しむ。 ・各々の役割を果たし他者と褒め称え合う。
将来	<社会> ・空間的に離れた「様々な立場の人」 ・時間的に離れた「まだ誰も見たことのない未来」 など，未知の世界を推し測って，相対的に社会を捉える。			

三観点と生徒に提示している本校の課題研究の目標の対応

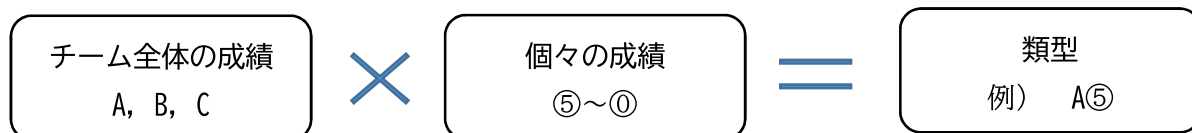
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 既存の知識をありがたく、そして、正しく使わせてもらう。</p>	<p>課題の設定</p> <p>⑥ テーマを自分ごととして捉え、何のために進むのかを認識した上で進む。</p> <p>整理・分析</p> <p>② 事実を正しく認識し、自らの考えを上乗せして答えを見出す。</p> <p>まとめ・表現</p> <p>④ オリジナリティを他者に表明する。</p>	<p>自己認識・他者や社会の認識</p> <p>⑨ チーム内の役割を自ら、もしくは対話の中で見出し、役割を果たす。</p> <p>⑩ 自分がチームに貢献していることに気づき、他者の貢献も認める。</p> <p>不足を分析し、粘り強く挑戦する</p> <p>③ 未知を既知にしていく過程を楽しむ。</p> <p>⑤ 自問自答を繰り返し、研究や自分自身の資質・能力の伸びしろを見出す。</p> <p>⑦ 自らの手で学びの計画を立てる。</p> <p>⑧ 伸びしろを詰め、研究の深まりや自らの成長を楽しむ。</p>

○番号は前頁の項目番号に合わせてつけている。

2. 評価に向けて

(1) 全体方針

評価¹に当たっては、過度に精緻化することを避け、チーム全体の成績と個々の成績をそれぞれ区分分けし、類型に分ける。類型に応じて、A～Cの段階や5段階評価を決定する



¹ ここでいう「評価」は最終的に成績として決定される評価（総括的評価）のことをいい、指導に活かす評価（形成的評価）とは異なる。

(2) チーム全体の成績について

手順その1：指導担当者による原案の作成

以下の内容に一項目でも当てはまらないかを検討。AにもCにも当てはまらない場合は、チームの評価をBとする。AとCが競合する場合などは総合的に判断する。

評価	内容
A	<input type="checkbox"/> 論文や専門書などをたくさん読み、研究対象について「歴史的な背景」「本質的な理解」などを得た。<特筆すべき高度な専門性・学識>
	<input type="checkbox"/> 研究に関わる内容で、資格を取得したり、表彰を受けたりした。<特筆すべき専門性・学識，活動履歴>
	<input type="checkbox"/> 外部発表に出す，論文の懸賞に応募するなど，積極的に自分たちの研究を校外に広めようとした。<特筆すべき意欲>
	<input type="checkbox"/> フィールドワークに複数回行き，専門的な知識を得た。<特筆すべき意欲>
C	<input type="checkbox"/> 指導教員が研究の進捗を頻繁に気に留める必要があり，声掛けをすることが多かった。<主体性の不足>
	<input type="checkbox"/> 中間発表以降に研究が深化しなかった，中間発表と同じレベルの発表をした。伸びしろがあるのに伸ばそうとしなかった。<意欲の不足> ※ 高校生にとって越えがたい壁を乗り越えられなかった等，やむを得ない場合はこの項目に該当しない。
	<input type="checkbox"/> 教員の助言を受けて、改善すべきところにもかかわらず改善しようという行動が見られなかった。

③ 手順その2：教員間での承認

教員複数名でチームを編成し，原案について確認を行う。

(3) 個々の成績について

① 基本方針

「a チーム内パフォーマンス」と「b 課題実施状況」の二つに分ける

a チーム内パフォーマンス

評価されるべき項目について、チーム内相互評価と個人振り返りをもとに総合的に判断する。

評価されるべき項目（いずれも複数回答可）

記号	役割	指標となる行動	問診番号	該当する「指導目標」
ア	知恵袋	<input type="checkbox"/> 研究に必要な知識・情報を入手し、チームに共有することでチームに貢献した。	(1)	① 既存の知識をありがたく、そして、正しく使わせてもらう。
イ	開拓者	<input type="checkbox"/> 研究手法や考察などで新たなアイデアを発信してチームに貢献した。	(2)	② 事実を正しく認識し、自らの考えを上乘せして答えを見出す。 ③ 未知を既知にしていく過程を楽しむ。
ウ	チェッカー	<input type="checkbox"/> 研究の進捗に際し、自分たちの研究を冷静に見つめ、課題点を多くあぶりだすことで貢献した。	(3)	⑤ 自問自答を繰り返し、研究や自分自身の資質・能力の伸びしろを見出す。 ⑥ テーマを自分ごととして捉え、何のために進むのかを認識した上で進む。
エ	マネージャー	<input type="checkbox"/> 研究の進捗と残り時間を把握し、研究の推進に貢献した	(4)	⑦ 自らの手で学びの計画を立てる。
オ	取りまとめ役	<input type="checkbox"/> チーム内で、議論の際には進行役などを務めることが多かった。	なし※	⑨ チーム内の役割を自ら、もしくは対話の中で見出し、役割を果たす。
カ	クリエイター	<input type="checkbox"/> チームで一つ提出すべき成果物（要旨、スライド）など、チームの財産となるものを仕上げた。	(5)	④ オリジナリティを他者に表明する。
キ	挑戦者	<input type="checkbox"/> 未知に対して、挑むことを楽しむ姿勢でチームを活性化した。	(6)	⑨ チーム内の役割を自ら、もしくは対話の中で見出し、役割を果たす。 ⑩ 自分がチームに貢献していることに気づき、他者の貢献も認める。 ⑧ 伸びしろを詰め、研究の深まりや自らの成長を楽しむ。

※ 取りまとめ役は普段の研究活動やグループディスカッションの様子から担当教員が判断。

補足 指導担当教員は個人得点の検討の際、次のような事態がないかを考慮しつつ原案を作成すること。

- あ 文章力不足、振り返りレポートの記入時間不足で振り返りレポートから裏付けが取れない。
- い 本人の到達水準は他チームであれば十分なのに、チームのレベルが高すぎて二番手、三番手に甘んじてしまっているため、チームの相互評価で名前が挙がらない。
- う その他、配慮すべき事項がある。

b 課題実施状況

宿題²などの実施状況から総合的に判断する。

2 本校では毎時間、家庭で1時間程度の活動を課しています。各チームで個別の課題を課することがルールとなっていて、調査、データの分析、実験手法の検討を実施してきます。その他に、長期休業期間に発表要旨の下書きやスライドの絵コンテの作成などもあります。

② 手順

手順1：生徒がチームの相互評価と各自の振り返りレポート記入を行う。

- ・ 2月の課題研究Ⅱの授業の時間中に行う。
- ・ 相互評価は抜き出しでグループ面接の形式をとる。相互評価表（B4版片面1枚）を用いる。一班10分。
- ・ 各自の問診表の記入は時間を決めて一斉に行う。振り返りレポート（B4版両面2枚）を用いる。説明5分、記入40分。持ち込み可。ただし、デジタルデバイスは持ち込み不可。

手順2：指導担当者が個々の成績の原案を作る。

- ・ 相互評価と各自の振り返りレポートと年間の活動状況を参考にし、指導担当者が個々の成績をつける。得点はチームの相互評価表に記載する。加点・減点に際し、成果物だけでは判断がつかないものは付箋を貼る、得点表にその旨記入するなど、その事由が明確になるようにする。

手順3：複数の教員で原案を確認する。

(4) 仕上げにあたって

- ① 確認済みの原案は締め切り日までに所定のexcelファイルに入力する。
- ② 課題研究委員会で確認用資料作成。
- ③ 課題研究担当者が参集し、成績を確認し、確定させる。
- ④ 成績の登録は課題研究委員会のメンバーが指名した者が行う。

配付物見本 課題研究 チームでの相互評価表

分野 _____ 班番号 _____

テーマ _____

手順

- ① 下表の一番上の行のメンバーの年組番，名前を記入してください。
- ② 下表の記号ア～キのチーム内の役割について，メンバーの誰が該当するのかをチームで検討し，該当する人の□にチェックを書き加えてください。一つの枠に□が二つある場合は二つともチェックしてください。いずれの項目も複数回答可，該当者なしも可としますが，全項目のすべてのメンバーの□にチェックをすることは禁止します。制限時間は10分とします。

記号	役割	指標となる行動	メンバー					
			年組番 (4桁)	年組番 (4桁)	年組番 (4桁)	年組番 (4桁)	年組番 (4桁)	年組番 (4桁)
			名前	名前	名前	名前	名前	名前
ア	知恵袋 ①	研究に必要な知識・ 情報を入手し，チ ームに共有するこ とでチームに著しく 貢献した。	□ - -	□ - -	□ - -	□ - -	□ - -	□ - -
イ	開拓者 ②③	研究手法や考察な どで新たなアイデ アを発信してチ ームに著しく貢献し た。	- □ □	- □ □	- □ □	- □ □	- □ □	- □ □
ウ	チェッ カー ⑤⑥	研究の進捗に際し， 自分たちの研究を 冷静に見つめ，課題 点を多くあぶりだ すことでチームに 著しく貢献した。	- □ □	- □ □	- □ □	- □ □	- □ □	- □ □
エ	マネー ジャー ⑦	研究の進捗と残り 時間を把握し，研究 の推進に著しく貢 献した	- - □	- - □	- - □	- - □	- - □	- - □
オ	取りま とめ役 ⑨	チーム内で，議論 の際には進行役など を務めることが多 かった。	- - □	- - □	- - □	- - □	- - □	- - □
カ	クリエ イター ④	チームで一つ提出 すべき成果物(要 旨，スライド)など， チームの財産とな るものを仕上げた。	- □ -	- □ -	- □ -	- □ -	- □ -	- □ -
キ	挑戦者 ⑧⑨⑩	未知に対して，挑む ことを楽しむ姿勢 でチームを活性化 した。	- - □	- - □	- - □	- - □	- - □	- - □

以下、教員使用欄

	加点								
	合計点								

3. 相互チェック

【1】ローテーション

表は一例です。

分野（班の数/教員数）	原案担当者 2/26 まで	チェック①（緑） 2/27・2/28	チェック②（青） 2/29・3/1
化学	担当者 A		
情報+保健体育		担当者 A	
保健体育			担当者 A
物理			
地学			
生物+保健体育			
数学			
連携			

【2】チェック内容

次の二点についてチェックを行い，記入にはチェック①緑色，チェック②青色で記入。

- 個人成績の加点が妥当か。異議がある場合は当該の欄に書き込む。
- 個人成績の得点合計があっているかどうか。間違えている場合は，当該の合計の横に正しい値を書き込んでおく。
 - ・ 訂正や疑義があったものは付箋（黄色・25 mm×75 mm）を用紙からはみ出すように貼り，記入があることがわかるようにすること。

チェック後の注意点

- ・ チェックによる異議の扱いは原案作成者が判断する。異議を却下する際は却下する理由を得点表に記入しておく。
- ・ 論文の提出状況は紙媒体のものが提出されているのか確認する。

4. 補遺

(1) 各学校において総合的な探究の時間の目標を定める際に考慮すること

→ 各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ総合的な探究の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

(2) 各学校において探究活動の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を定める際に配慮すべきこと

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにする	探究の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにする	自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえる
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実に知識は探究のプロセスが繰り返され、連続していく中で、何度も活用され発揮されていくことで、構造化され生きて働く概念的な知識へと高まっていく。 ・ 探究の過程により、どのような概念的な知識が獲得されるかということについては、何を探究課題として設定するか等により異なる。 ・ 技能についても、探究のプロセスが繰り返され、連続していく中で、何度も活用され発揮されていくことで、自在に活用できる技能として身に付いていく。各学校においては、探究の過程に必要な技能の例を明示していくことなども考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の発見と解決に向けて行われる横断的・総合的な学習や探究において、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の探究のプロセスが繰り返され、連続することによって実現される。この探究の過程では、「探究の見方・考え方」を働かせながら、それぞれのプロセスで期待される資質・能力が育成される。 ・ 課題の設定については、生徒の課題の解決や探究活動への習熟が高まるにつれて、問題状況を単純なものからより複雑なものへとしたり、解決の手順等について教師があらかじめ示すことを段々と少なくし、生徒自身が見通しや仮説を立てることに比重を移したりして、質を高めていくことが考えられる。 ・ 同じように、情報の収集においては、多様な方法からより効率的・効果的な手段を選択できるようにしたり、整理・分析においては、より深く分析したり、より確かな根拠付けが行われるよう質を高めていくことが考えられる。 ・ まとめ・表現については、相手や目的に応じてより分かりやすく伝わるように、より論理的で効果的な表現を工夫したり、学習を振り返る中で、より物事や自分自身に関して深い気付きとなるよう内省的な考え方が深まるようにしたりしていくことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つは、より複雑な状況や多様で異なる他者との間においても発揮されるようになることである。例えば、他者理解という視点で言えば、異なる立場、異なる考え方をもつ相手のことを認め、理解しようとするができるようになることであり、自己理解については、様々に困難な状況に挑戦する中で自分を客観的に見つめ、自分らしさを発揮できるようになることなどが考えられる。状況や場面が変わる中でも、それらは確かに発揮できるように育成されることが期待される。 ・ 二つは、より自律的で、しかも安定的かつ継続的に発揮されるようになることである。自らの意志で自覚的に、しかも粘り強く発揮し続けられるようになることが期待される。 ・ 三つは、「自分自身に関すること」、「他者や社会との関わりに関すること」は互いにつながりのあるものとなり、両者が一体となった資質・能力として発揮され、育成されるようになることである。このように、各学校において育成を目指す「学びに向かう力、人間性等」を設定するに当たっては、学年や実施する探究活動に応じて、先に記した視点を参考に、ゆるやかな高まりを意識することも考えられる。

(いずれも学習指導要領(平成30年告示)解説)